



地理

見通し・振り返りを重視した授業実践 —ヨーロッパ州を例に—

栃木県 鹿沼市立板荷中学校 青木 靖

1 はじめに

「見通し・振り返り」学習活動は、学習指導要領において学習意欲の向上と自主的な学習態度の育成、学習内容の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成という生徒に最も必要視される資質・能力及び態度を形成するための最重要事項である。その一つの方策として、私は、特に地理的分野の学習において「学習計画・振り返り表」（以下、「計画表」）を作成して指導を行ってきた。「計画表」は学習意欲を持続させ、単元の学びを生徒が「見通し・振り返り」を行うのに役立つよう作成したものである。そこで本稿では、ヨーロッパ州の単元を事例に生徒が実際に記入した「計画表」（図1）を用いながら、「見通し・振り返り」の学習活動を重視した授業実践について紹介したい。

2 「学習計画・振り返り表」の効果

「計画表」を活用することにより、次のような効果があった。まず、指導する教師側にとっては、単元の全体や詳細を考えながら構想や指導を行うことができたこと、毎時生徒に感想・考察を書かせることにより学習の振り返りをさせることができたこと、また、生徒にとっては、「気をつけること・心がけること」という項目（図1-⑧）や教師からのアドバイスが、学習のガイダンスや学習ガイドとして機能していたことがあげられる。

3 「学習計画・振り返り表」を用いた「見通し・振り返り」学習活動のポイント

表1 「見通し・振り返り」学習活動のポイント

ポイント	計画表
(1) 「ねらい」「学習課題」を提示する。	⑤⑥
(2) 学習の流れ・展開、程度を考慮しながらさらに考えるための留意点や考え方を生徒の立場に立って示す。	⑦⑧
(3) 毎時の学習・それまでの学習を振り返らせながら、テーマとして掲げた考察の仕方でも考察させる。	⑨
(4) 毎時の考察の仕方での考察をもとに単元というまとまりで改めて考察させる。	⑩⑪
(5) 自らの進歩を実感させ、学びに向かう力を高める。	④ (⑨⑩⑪)
(6) 社会的事象の地理的な見方・考え方、地理的分野の学び方を気づかせ学ばせる。	⑧⑨ ⑩⑪

ねらい（「計画表」ではめあてとしている）を示すことは生徒の学習意欲を高めたり、本時の学習内容や方法に見通しをもたせたりするための一つの手段となっている。そこで表1の(1)では、生徒がねらいを知り、学習課題によってどのような学習内容・方法で、あるいはどのような見方・考え方や留意で追究していくのかを知ることができるよう、ねらいと学習課題の両方を示すこととした。

なお、ねらい（図1-⑤）は次のようなものを設定した。学習課題について追究していくために「何がわかればよいか、できればよいか」、「何について考えればよいか」、「どのような学習活動をするか、どのような活動を通してどのような方法で学ぶか」、「どのようなことに着目

Q. 多くの国々が継続きのヨーロッパではなぜもたえたりしていないのだろうか？
<予想>
117の国が小さく、協力しているから

2 結び付きに注目しながらヨーロッパについて学ぼう。

3 日本と比べたりしながら、ヨーロッパ州の自然環境や人々の生活・文化に関心をもって、学習に取り組み、ヨーロッパ州の特色を、人々の生活の様子をもとに、いろいろな面から考え、自分の言葉で説明できる。地図や資料から、自然や産業の特色、地域どうしの結びつきを調べられる。「結びつき」に注目しながら、自然環境や人々の生活・文化とその変化と課題についてわかる。

4 <単元表の計画>
A B C D
A B C D
A B C D
A B C D

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時		
<p>5 めあて 学習課題</p> <p>○ヨーロッパ州の主な国々の名前・位置、地形や気候の特色が作業を通してわかる。</p> <p>6 「どのような自然環境の特色があるだろう」</p> <p>○宗教・言語の違いと分布を調べることを通して、ヨーロッパの文化の特色がわかる。「どのような文化の特色があるだろう」</p>	<p>7 主な学習活動・内容</p> <p>・地図で主な国々の名前・位置を確認して白地図に書く。 ・地図で主な地形名を確認し白地図に書く。 ・気候の特色を確認する。</p> <p>・ドイツの祝日・主な国々の国旗からわかることをあげる。 ・3つの宗派・言語の特色や分布を資料で調べる。 ・多様な民族が共生していることを知る。 ・文化の特色をあらためて考える。</p>	<p>8 気をつけること・心かけること</p> <p>・国旗も見ておこう。 ・川をたどりながら国名と位置を確認しよう。 ・前半元の気候の学習を振り返ろう。 ・西岸海洋性気候については風や海流と関連させて理解しよう。</p> <p>・どのようなことが関係しているか考えよう。 ・宗派の特色は先生の話や後の歴史学習から掘もう。 ・3つの民族も確認しよう。 ・文化の特色 keyword : 「OO性」「OO性」</p>	<p>9 圏境を越えた結びつき</p> <p>・流れる国を流れている。国際河川 ・水河に「エボロ」といふものが流れる。 ・暖流の北は西海流と偏西風の吹き寄せによる寒暖差が大きい。 ・北西部・バルマン系・プロテスタント ・南部系・カリフ 共通性 ・東部系 多様な ・スラブ系 正教会 東正教 ・水一線ローが大きい。</p> <p>・結びつきによる変化 ・流れる都市も ・はびこる大切な道路など。 ・地中海沿岸にはバスも通っている。 ・植民地だった国のことを知っている。 ・79族の民族をそれぞれに書いている。</p>	<p>10 ヨーロッパ州の学習をまとめよう。</p> <p>・EUに加盟している国は、国境の通過の自由が関税がないなどの利点がある。 ・国境が長く流れている。補助金を出しているが負担を押し付けている。 ・キリスト教が信仰されていて、ドイツを中心に世界で最初に工業が発達した。1960年代にエネルギーが石油に転換し、石油化学工業が盛んになった。 ・EU内で協力して航空機を生産している。(先端技術産業)</p> <p>11 ヨーロッパの国々の結びつきについて感じたこと・わかったこと・考えたこと 自分達の国々のいい所を利用してうまく協力して生活しているんだと感じました。域内の課題などもたくさんある事も分かりました。 東ヨーロッパと西ヨーロッパの経済格差の問題と東ヨーロッパの人が働かなくなった西ヨーロッパの失業者が増えている事を知り、同じヨーロッパで、まいていり事もあったなと思いました。</p>		
<p>○統合の動きによる人々の生活の変化を結びつきに注目しながら調べる。「統合の動きによって、どのような生活の変化がみられたらう」</p>	<p>・あるドイツ人たちの姿を見る。 ・結びつきの歴史とその背景・理由を調べ考える。 ・EU加盟国でできることを調べる。 ・デンマークの課題を知る。</p>	<p>・外国の圏境との違いをイメージして見てみる。 ・他国と比較するグラフをもとに考えてみる。 ・後の歴史の学習でこの学習を活かそう。 ・自分が生活するとしたらと想定して加盟国のメリットをとらえよう。</p>	<p>・他国を自由に行き来できる。関税がない。 ・他国で働く事ができる。 ・ヨーロッパの国で買い物ができる。 ・銀行に預金ができる。 ・大学の進学費が安くなる。</p> <p>・他の国で働く人が増えた。 ・便利で豊かになった。 ・貿易が盛んになった。 ・他国へ行くのが楽になった(EU)。 ・資本利回りがあがる取り組みをしている。 ・補助金を出しているが負担になっている。</p>	<p>○農業の特色と課題を調べる。「農業にはどのような地域的特色と課題があるだろう」</p> <p>○工業の特色と課題を調べる。「工業にはどのような地域的特色と変化や課題があるだろう」</p>	<p>・3つの農業のやり方の特色と盛んな地域を調べる。 ・国による違いをもとにEUのめざす農業を知る。 ・EUの農業政策と課題を調べる。</p> <p>・航空機の生産について見る。このような特色の理由を考える。 ・工業の盛んな地域と変化を調べる。 ・伝統的な工業も知る。 ・EU統合による変化と課題を知る。</p>	<p>・ヨーロッパの人の食事や気候と関連させてみる。 ・各国の自給率の資料から政策・課題について考えよう。またあらためて農業の特色をとらえてみる。</p> <p>・地中海式農業 ・乳牛・豚・小麦などを育てる。(ドイツ・フランス) ・混合農業 ・畜産と工業や林業・飼育(ドイツ) ・酪農 ・林業</p> <p>・EU内で協力が航空機を生産している。(先端技術産業) ・EUの中で航空機を作っている。(先端技術産業) ・石炭から石油へとエネルギーの転換が起きた。石油化学工業が盛んになった。石油化学工業は、西ヨーロッパの主要産業の一つである。</p>

図1 生徒が記入したヨーロッパ州の「学習計画・振り返り表」の例 (カコミヤと数字は編集部)

して学ぶか」といったものである。

学習課題(図1-⑥)は、ねらいをもとに検討し、またその追究や解決を学習内容・方法とすることから、授業構想および授業実践において、目標-指導-評価の一体化の具現であり、根幹をなすものである。これは「見通し・振り返り」学習活動の中でおいに意識したい。(2)でもいえるが、授業では導入の学習活動・内容

※: 図中○は、考察の仕方のポイントとなる「結びつき」を考える上で中心となる時間(単元によっては、その単元で特に育成をはかりたい資質・能力を発揮させる時間)

との関連を図り生徒に見通しをもたせながら適切な学習課題の提示を行い、また意図的な留意や、ゆさぶり・ほめめかし等を行うことによって学びの促進をめざしたい。学習課題は、社会的事象の経緯を調べるならば「○○はどのような~だろう」、社会的事象の背景や原因を中心に追究していくならば、「○○はなぜ~だろう」といった各々の課題解決型の学習にふさわしい

ものを設定することに留意して作成した。

(2)については、(6)の内容を参照してほしい。ここでは見通しを意識することが重要である。

(3)(4)の振り返る活動では、活動を通して授業の前後で自分の考えがどのように変わったのか、何が身についたのか等の自覚化が重要である。そのため、改めて考察することは、生徒にとって自分の学びを評価する活動となる。

(5)では、評価がもつ機能をいかして、評価段階を増やしたり、生徒の記述に対して簡潔ながらも賞賛のコメントを記入したり、よい着眼点や発想には朱書きのアンダーラインを引いたりして、評価を行った。そして、それらの評価を生徒に返すことによって、それが見方・考え方の獲得、学習意欲の向上、自主的な学習態度の育成、資質・能力及び態度の向上につながったことを確認できた。

(6)では、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であり、「計画表」では多くの項目において「見方・考え方」をふまえた。全般的に、生徒の立場に立って地理的な見方・考え方をにおわせるような視点や方法を示したり、わかりやすい表現を心がけたりした。なお、これについては、(i)単元で得た知識を中心とした学びを、生徒の思考によりいかに。(ii)系統性もふまえ、深い思考をうながすようにする。(iii)育成を図る資質・能力によって「計画表」の形式を多少変える。(iv)思考・判断・表現の観点の評価場面を十分確保する。といったことも考慮している。

これらをふまえ、ヨーロッパ州の「計画表」の各項目を以下のことに留意して設定した。

- ・項目「Q」(図1-①)：単元の学習内容やテーマとのかかわりをイメージさせ、見方・考え方をおおわせる問いを位置づける。
- ・項目「テーマ」(図1-②)：考察の仕方を毎時と単元の最後で意識させる。

- ・項目「目標」(図1-③)：今回は「日本と比べたりしながら…(関・意・態)」「結びつきに注目しながら…(知・理)」などを掲げた。これらは地理的な見方・考え方そのものである。単元の最後でA～Dの4段階で生徒に評価させる(図1-④)。
- ・項目「ねらい(めあて)」「学習課題」(図1-⑤⑥)：見方・考え方にあたる視点や方法を示す。
- ・項目「主な学習活動・内容」(図1-⑦)：今回は問いに対する答えを半分示してしまった感があるが、ヨーロッパ州の単元を「世界の諸地域」の学習の最初に位置づけたこともあり、見方・考え方を学ばせるには、視点のある程度示した上での追究も(いわば手の内を明かすのも)、一つの方法としてよいのではないかと考える。
- ・項目「気をつけること・心がけること」(図1-⑧)：見方・考え方を学習内容・方法に合わせて具体的に数多く掲げる(指導案の「指導上の留意点」にあたるもの)。
- ・テーマと関連する記述をする欄(今回では結びつき)(図1-⑨)：地理的な見方・考え方を中心としたこれまでの学びを駆使させて記述させる。
- ・単元の最後の自由記述の欄(図1-⑩⑪)：見方・考え方に関する生徒の記述を期待したい。

4

単元の授業の実際

単元の導入では、発達段階や指導の系統性をふまえ、問い(Q)を設定し、生徒に予想を書かせた。「考え方が同じ・似ている」「小さい国が多いので協力している」といった結びつきにつながる回答があった一方で、「国境が山脈や川になっている」「条約・法律がある」といった社会科の内容にはふさわしいが結びつきをあまり意識していないものも回答としてあがっていた。そのため、「テーマ」は、上記の生徒の回答を考慮し、単元の学習展開や発達段階・系統性をふまえ、本単元では教師側から提示することとした。

第1時では、国際河川、ピレネー山脈、海峡、島をあえて意識して確認させ、結びつきを考えられるようにした。ここで、国と国旗を以前の学習と関連させながら確認させ、国旗に描かれ

ている十字架等で共通性をほのめかした。「計画表」のテーマ（結びつき）に関する項目である「国境をこえた結びつき」の欄は、前述の通りヨーロッパ州を「世界の諸地域」の最初に位置づけたことから、考える範例となるように生徒全員で考え教師が適切に関与して表に記入させた。「結びつきによる変化」の欄はこの段階ではまだ難しかったようで、教科書から抜き書きする程度にとどまった。

第2時の宗教・言語・民族等の文化の学習では、『中学校社会科地図』p.53「③労働者の移動」も見せながら、旧植民地から、また労働者として各地から移住者が集まっていることについてふれた。「国境をこえた結びつき」については、文化を結びつきとの関連でとらえることは生徒にとって難しかったようである。そこで「共通性」「多様性」をキーワードとして示したところ、それをもとにしてとらえる生徒や、国旗の十字架について言及する生徒もいた。「結びつきによる変化」の欄には多様な民族がともに暮らすようになったという記述が多くみられた。

第3時は、『社会科 中学生の地理』p.56「①フランスとドイツを結ぶ橋をわたる子どもたちとその橋」「国境の近くに住むドイツ人の話」(図2)を導入で用い、国境のようすやドイツ人の話を見せ、結びつきの歴史・背景・理由を中心に展開した。「国境をこえた結びつき」の欄は「加盟国内でできること」を宿題として記入させ、次時の導入で確認を行った。その上で、「結びつきによる変化」について考えさせ、「アメリカ合衆国に対抗できるようになった」ということや、人々の生活、行き来、貿易、産業発展、労働について多くの生徒が気づくことができた。

第4・5時では、EU域内の食料自給率をあげる取り組みや航空機の分業生産などEU各国が協力している姿を取り上げたところ、「結びつきによる変化」では産業にかかわるEU加盟のメリットとともにデメリットや今後の課題が

国境の近くに住む ドイツ人の話

私が住んでいるのは、フランスの国境から20kmほどのドイツの町で、勤め先があるフランスのストラスブールへは毎日、車で通勤しているの。お給料はもちろんユーロでもらっているし、仕事帰りには、会社の近くにあるフランスのスーパーマーケットで夕飯の食材を買うの。ドイツもフランスも同じユーロで買い物ができるから、本当に便利よ。



図2 『社会科 中学生の地理』p.56
「国境の近くに住むドイツ人の話」

あげられていた。

「計画表」の最後には、振り返りとして単元の学習のまとめを書かせている(図1-⑩)。ここではまだ少々稚拙で単なる学習内容のまとめのみに終始してしまった生徒が多かったものの、一方で本単元の考察の仕方である結びつきをしっかりとふまえてまとめを行うことができた生徒もいた。振り返りとしての感想・考察(図1-⑪)には、イギリスのEU離脱問題について記述する生徒もおり、社会の動きに主体的に関心をもとうとしているようすがうかがえた。

なお、振り返りにおいて、見方・考え方をとおおいに働かせた考察をさせたい場合は、発達段階や系統的な指導もふまえながら、さらなる発問の工夫が必要である。

5 おわりに

「世界の諸地域」「日本の諸地域」の学習では「計画表」を活用して指導している。これを繰り返すことによって、考察の仕方にもとづいた質の高い生徒の記述が見られるようになっていく。発達段階、生徒の実態、指導の系統性をふまえ、適切な評価や個別の賞賛や励ましといった声かけを交えながら、中長期的な展望をもって指導にあたることが大切であろう。

帝国書院の指導者専用サイトに、未記入の「学習計画・振り返り表」を掲載する予定です。
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)